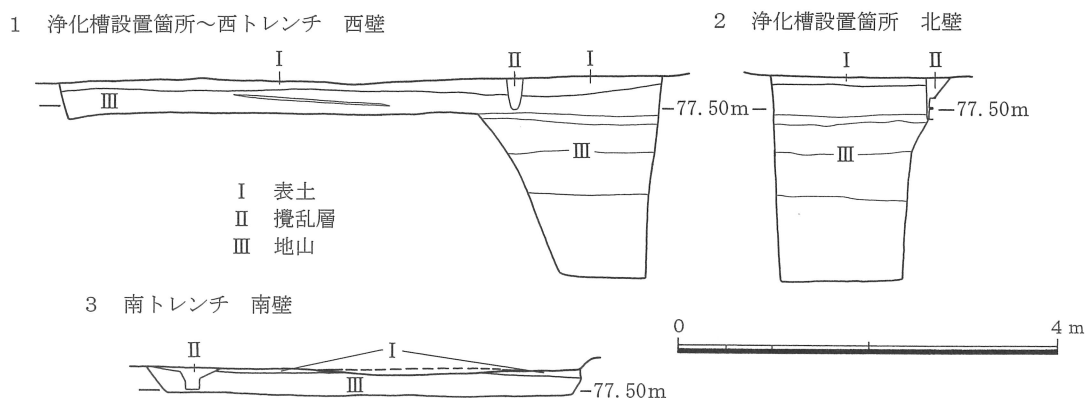




第 32 図 柏原陵 調査箇所断面図 (1/80)

掘削にかかる箇所では、あつく堆積した腐葉土の下は、黄灰褐色バイラン土を混じえた黒灰色土（盛土）であった。

このように、今回の調査により、桓武天皇陵の南参道および内参道は当初の地形を大きく削り取り、整備されていることが明らかとなった。

遺物は、いずれの調査箇所においても認められなかった。

工事は予定どおり施工した。

(福尾正彦)

## 開化天皇 春日率川坂上陵進入路設置その他工事箇所の立会調査

本陵は、奈良市油阪町にあり、主軸を南北に向ける全長約100mの前方後円墳である。この度、奈良部事務所裏に新たに進入路を設置することとなり、平成14年7月29日～8月1日の間本部職員が立会い、その他工事期間中は監区職員が随時立ち会った。

付近一帯は、江戸末期には隣接する西照寺の墓地であったことが知られており、過去に鳥居改築工事に伴って行われた調査では、蔵骨器などが多数出土している（本誌28号参照）。

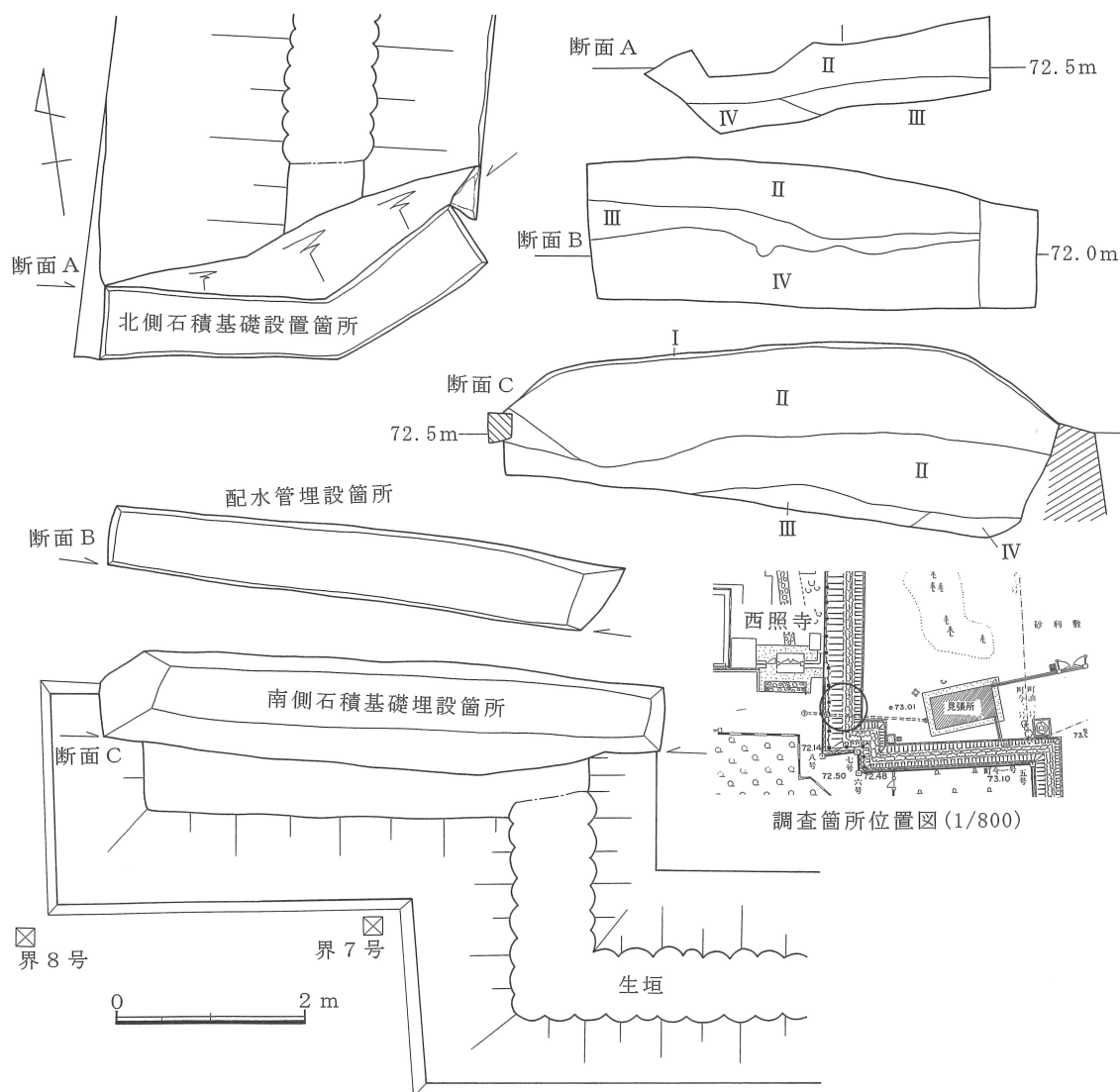
今回の調査地点は、第33図に示したとおり、奈良部事務所の西側にあたり、外構囲障の土堤を断ち割った上で、石積基礎設置箇所2箇所と排水管理設置箇所の掘削を行った。

**石積基礎設置箇所**（第33図断面A・C）掘削規模の大きい南側（断面C）で長さ6m×幅約0.8m、外構囲障の土堤の断面も合わせて深さ（高さ）は約2mである。I～IV層が確認された。表土（I）の下は厚い外堤の盛土（II）で、石積との関係から現在の境界を確定した際に築かれたことがわかる。その下には外堤を築く前の整地層と思われる暗茶褐色土（III）があり、もっとも下で地山（IV）を確認した。北側設置箇所も南側と同様の状況を示している。

**排水管理設置箇所**（第33図断面B）南側石積基礎設置箇所に並行して、長さ約5.5m×幅0.8m×深さ1.5mを掘削し、II～IVの3層を確認した。特徴は石積基礎設置箇所と同様である。

遺構・遺物は認められず、工事は予定通り実施した。

(清喜裕二)



第33図 春日率川坂上陵 調査箇所位置図(1/800)および断面図(1/80)

## 来目皇子 埴生岡上墓侵入防止柵設置区域の立会調査

本墓は、大阪府羽曳野市を北に向かって下る羽曳野丘陵上に位置する一辺約55mの方墳である。この度境界線に沿って侵入防止柵の設置工事を行うこととなり、平成15年3月17～20日の間、本部職員が立会い、その他の期間は監区職員が随時立ち会った。

設置区域は、北辺と西辺の延べ110mで、その間に1辺0.4m×深さ0.4mの侵入防止柵基礎埋設坑を57箇所掘削し、A～D地点では長さ2～2.5m×幅0.6m×深さ0.5～0.6mの規模で門扉基礎埋設坑を掘削した。第34図に主な断面図を提示したが、土層は上から、表土(I)、石積の裏込土(II)、盛土(III)、地山(IV)に分けられ、2通りの状況が観察された。ひとつは石積設置の際の掘形が確認できるもので(2・A・B)、II層中には石積を調整する際に生じたと考えられる剥片が多く含まれている。もうひとつは掘形が確認されず(1・D)、III層が石積と並行して盛られたと考えられるものである。基礎埋設坑CもDと同様である。地表面の高さが一定しないため、場所によって施工方法に違いが生じたのであろう。